

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果と取組について

令和6年4月18日（木）に実施しました6年生の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします。今年度は、国語・算数の2教科で調査が実施されました。今回の結果を基に、本校の児童が十分に理解しているところや課題になっているところを把握し、授業改善や生活指導に生かしたいと考えております。御家庭におかれましては、お子さんの学習・生活習慣の見直しや在り方について、親子で話し合う機会を設けていただきますようお願い申し上げます。

【令和6年度全国学力・学習状況調査結果～平均正答率～】

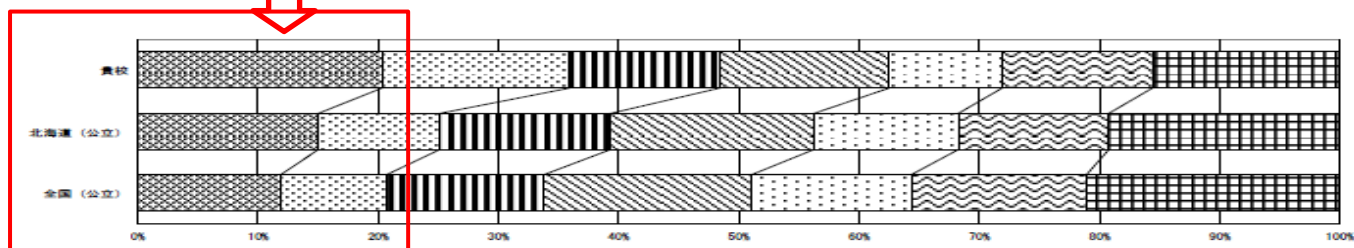
今年度、2教科とも全国・全道並み、それ以上の結果が見られました。

教科	国 語		算 数	
	平均正答率（％）	全国差（％）	平均正答率（％）	全国差（％）
上磯小学校	66.0	-1.7	58.0	-5.4
北海道	67.0	-0.7	61.0	-2.4
全国	67.7	0.0	63.4	0.0

【児童質問紙等の分析】

生活習慣では、毎日、同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしている子が多いです。しかし、平日（月～金）に携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている時間が、4時間以上の割合が高いことから、ICT機器を有効活用しながら、授業内容のつながりを意識した家庭学習の取り組みませ方や家庭でのルール作りなど、改善する必要があると考えます。

質問番号	質問事項											
(6)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	20.3	15.6	12.5	14.1	9.4	12.5	15.6				0.0	0.0
北海道（公立）	15.0	10.1	14.2	16.9	12.0	12.5	19.2				0.0	0.0
全国（公立）	11.9	8.8	13.1	17.3	13.3	14.6	21.1				0.0	0.0



御家庭へのお願い（引き続き取り組んでほしいこと）

- 携帯電話・スマートフォンなどで、動画視聴やゲームの時間に関するルールをお子さんと話し合って決めてください。
- 家庭で学習する習慣・正しい生活習慣作りに御協力ください。

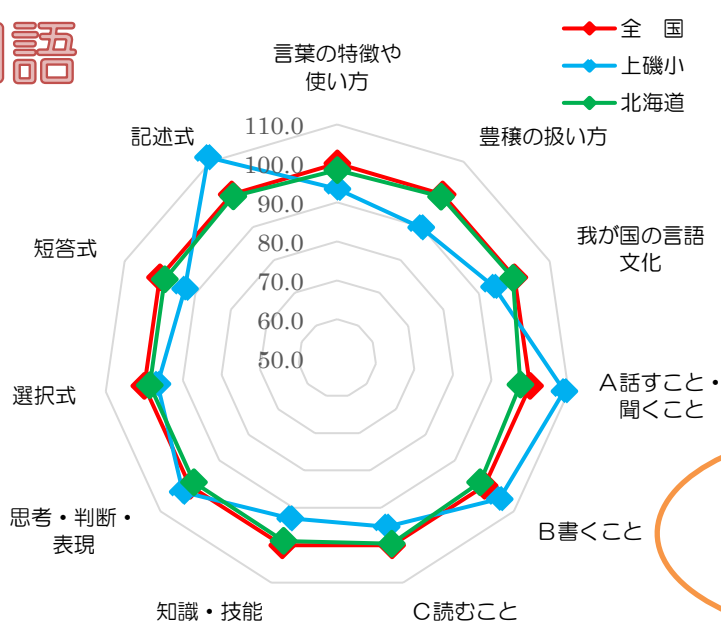
学校では（改善に向けた取組）

- 主体的・対話的で深い学びを実践し、日常の授業改善を進めます。
- 放課後学習（チャレ15）や長期休業中のサポート学習の実施・改善に努めます。
- 学習用具のきまりや学習のスタンダードの統一・徹底を図ります。（HP内「知っとこ☆上小」参照）
- 1人1台端末の有効活用の充実を図ります。

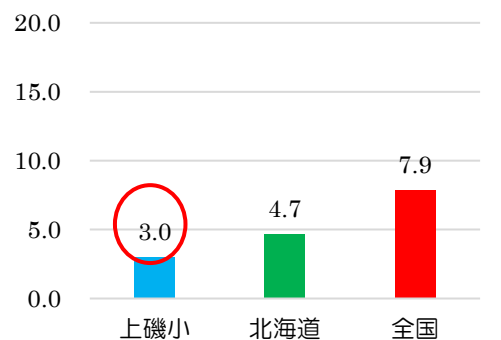


※全国平均を 100 として換算

国語



【国語：正答数の少ない児童の割合】
* 14 問中 4 問(約 30%)以下



日頃から自分の思い
を丁寧に伝えよう！
書いてみよう！

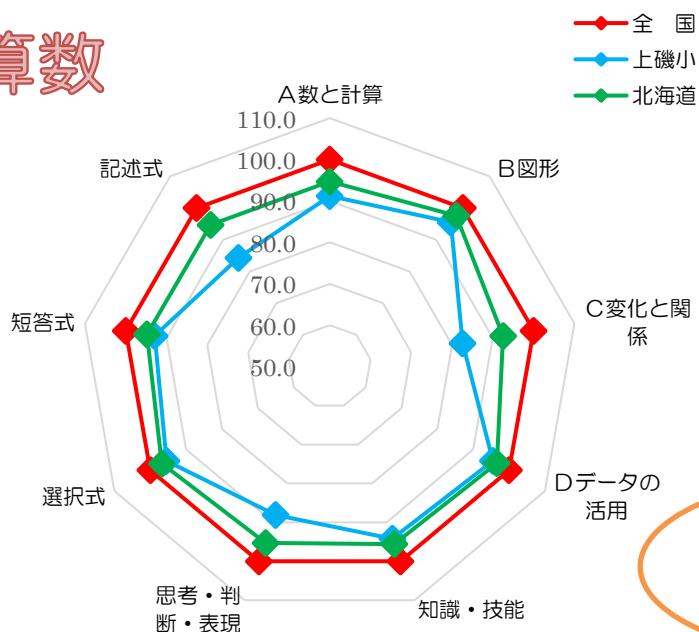


【分析】

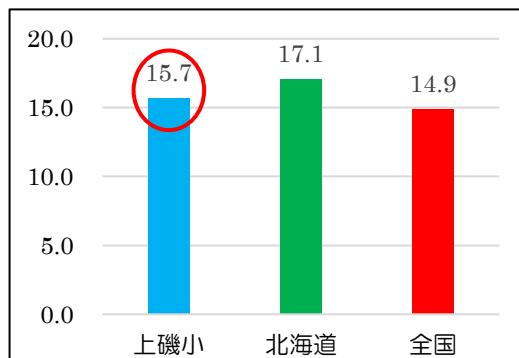
国語が将来役に立つことや大切であることを理解し、問題を最後まで解答しようと努力することができます。「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる」かどうかを問う設問など、話すことや書くことなどの力が身に付いています。

また、「漢字で書き表す・適切な主語を選択する」設問は、全道・全国に比べて低い結果となったことから、日常から言葉の使い方に気をつけ、伝えたいことを的確に表現する力を高める学習を展開する必要があると考えます。

算数



【算数：正答数の少ない児童の割合】
* 16 問中 5 問(30%)以下



自分の言葉で説明！
TRY！TRY！



【分析】

算数では、「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる」かどうかを問う設問の正答率が高く、全道・全国以上の結果となりました。また、「直方体の見取図を理解し、描くことができる」かどうかを問う問題の正答率も高く、よく理解していることが分かりました。しかし、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」かどうかを問う設問については、全道・全国に比べて低い結果となりました。上記の棒グラフにあるように、正答数の少ない児童の割合がやや高いことから、授業で扱う算数用語についての理解と定着を図り、立式の根拠や方法を自分の言葉で説明する学習場面を展開する必要があると考えます。